

エアコンの血液を運ぶ

進化する管・継手技術

アトムズ

地道な役所回りで理解浸透 直前、仕様変更でレフリックス設置も



小嶋 太郎社長

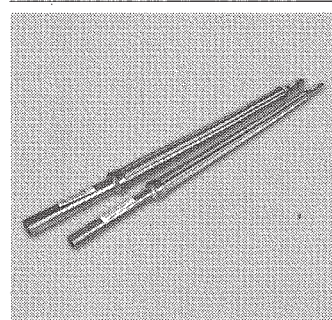
カップリングならびにゴム可とう伸縮継手、ゴム製・テフロン製の防振・フレキシブル継手などを展開するアトムズ（社長＝小嶋太郎氏、本社・千葉県松戸市中根548）は令和元年の集中的市場創出を政府主導で実施する全国学校の空調化工事における冷媒銅管用変位吸収継手「レフリックス」の採用増に焦点を絞った。

これより先に、国土交通省が示す「標準仕様書」において第4節の配管施工の一般事項として建築物エキスパンションジョイント部の配管要領は、標準図（施工7・エキスパンションジョイント部配管要領）によるものと示されていること。また同標準図にはフレキシブルジョイントを使用

する場合として図式でも解説されている。さらに冷媒管の立て管は2・6・3「吊り及び支持」の当該事項によるものとし、管の熱伸縮量を頂部及び最下部において吸収する措置を講ずると示されていることを受け、法令遵守、適正、適切な工事品質の維持を旗印にその啓蒙を行い、こうした建築物のエキスパンションジョイント部の配管施工に対し、常に標準仕様のもとに行われるべきと呼び掛け理解・浸透を促すことへ注力してきた。

本年は学校空調化工事がかローズアップされたことで、さらに一層の人員を割いて全国の市役所等、公共機関へその説明に向くなど、川上の営業に努めた結果、多くの賛同を得て、令和改元直前の3月、4月の2ヵ月間だけで例年の倍以上の採用実績に繋がった。

小嶋太郎社長は「改めて役所を中心に動いたが、法令遵守に前向きな



冷媒銅管用変位吸収継手「レフリックス」

り、既に体温を超えるような酷暑も珍しいことでは無くなった。つい先頃北海道・佐呂間町におい

て難しいところもあり、校舎隣接で建てられているケースも多い。是非ともこうした箇所には本来、公共工事の一環である学校空調においては当然、その仕様に準拠した製品を推奨していくべきと考える」とし、アトムズが投じた一石が着実に市場に変化をもたらせたことに強い手応えを感じたとし、今後も機器ならびに部材関係の枯渇など

が一部ではあるものの、手を緩めることなく積極的に告知を広めていきたいとした。

そもそも学校の空調化を全国的に展開することとなった要因のひとつとして挙げられるのは、昨年7月に愛知県豊田市の小学校で発生した小学校一年生の熱中症による死亡事故がある。近年の異常気象も大きく影響していることは確かであり、既に体

て39・5度Cを越え、5月としては全国観測史上での最高気温を記録するなど、本格的なシーズン前にして衝撃的なニュースが報じられたばかりだ。

さらに従来、電気式ヒートポンプ式空調機（EHP）を主体に取り組んでいた同案件においてアトムズでは、この度ガスを熱源とするガス式ヒートポンプ空調機（以下「GHP」）での設置についてもガス会社などを通じて接点を広げ、GHP案件でも同様に国土交通省「標準仕様書」の遵守を訴えかけていくものとし

ている。

さてこうしたなか、6月11日より3日間、東京都江東区の青海展示棟にて開催される第51回管工機材・設備総合展に今年もレギュラー出展を行う。主要製品であるメカニカル継手「アトムスカップリング」やゴム可とう伸縮継手「アトムジョイント」の展示はもとより、レフリックスについてはエキスパンションジョイント部のイラストの中へフラケット状に製品を落とし込み「見てわかる」展示手法に工夫を凝らしていくとしている。

冷媒配管特集